

アカハラ

Turdus chrysolaus

ツグミ科・夏鳥



アカハラ

名前の由来

胸と脇腹が赤い（オレンジ色）のでついた名。漢字名：赤腹

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）23.5cm。ムクドリくらいの大きさ。

頭部から背、翼はオリーブがかかった褐色で、胸と脇が濃いオレンジ色。腹の中央は白い。

メスのものには、白斑が縦に何列か並ぶ。

声：「キョロン、キョロン、チリリリ」と大きな声で早朝（夜明け前）から夕方遅くまで華やかにさえずる。ほかにも「ホイチョー、チリリリ」「キッキッキロン、キョロン、チー」などと変化が多い。地鳴き（さえずりでない普通の鳴き声）は「ツィー」と鋭く、飛び立つときには「クワッ、クワッ」と鳴くことが多いという。幼鳥は「キョッ、キョ、キョキョ」と鳴くという。

飛び方：羽ばたきを途中で休みながらも直線的に飛ぶ。

類似種と区別点：マミチャジナイ。

マミチャジナイにははっきりした白い眉斑（目の上の眉毛の様な斑点）があり、くちばしの基部も白い。



アカハラの横顔



アカハラの腹。中央下腹は白い

生息環境・分布

山地の明るい林、疎林を好む。林縁で繁殖する。十勝では夏鳥。

分布：夏は日本の北部、サハリン、南千島だけで繁殖し、冬は日本南西部から中国南部などに渡る。別亜種のオオアカハラは千島北～中部に分布する。

日本では本州中部以北、北海道で繁殖し、冬は本州中部以南。

北海道には4月下旬に渡来し、平野部から山帯の森林にかけて生息する。

十勝には、4月下旬に渡来し、平野部から低山帯の森林に生息。木の多い公園でも繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁殖							
本州中部以南 (越冬期)												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
ワシタカ
鳥類

食性・他生物との関わり

地上の落ち葉をはねのけて昆虫やミミズをあさる。木の実は好み、枝に残った柿の実をついばんだりする。
捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5月中旬～8月、一夫一妻で繁殖する。
4月下旬にまずオスが飛来してなわばりを作り、遅れてメスが飛来してなわばりを持つオスとつがいとなるという。巣は林内より林縁部の、多くは2m前後の高さに作られる(→興味深い話の項参照)。木の枝と草の根を主な材料とし、枯れ葉などに土を交えて椀型に作られるという。
3～5個産卵し、メスだけが卵を抱いて約14日でヒナが孵る。ヒナへの給餌はオスメス共同で行われ、約13日間で巣立つという。



アカハラの巣。メスが顔をのぞかせている

興味深い話

- 十勝で幼鳥の時捕獲標識(番号入りの足輪)されたアカハラがフィリピンのルソン島で回収されたことがある。
- 標識調査で、6年の生存が確認されている。
- オスはメスより早く繁殖地にやってきて、直径300m以上もあるなわばりを作り、「キョロン キョロン チリリリ」と大きな声で朝早くから夕方まで華やかにさえずる。
- 「キョロン ツイー」と2節で鳴くのはマミジロ。
- 巣は基本的に地上2m程度の低い場所に作られるため、卵やヒナが地上のヘビなどといった外敵に襲われやすいという。
- 巣は高い場合には11m、低い場合には1m以下の高さに作られたという記録がある。
- ヒナには主にミミズを与えるが、時には昆虫やクモを与えもするという。
- ヒナが大きくなると骨格形成のためのカルシウム分を補

うためなのか、カラ付きのカタツムリを親鳥が運んでくることがあるという。



梢のアカハラ。なわばりは半径300m以上と広い

配慮事項

林の下に藪がなく、林冠が開けた明るい林と草原が接する場所が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「名前といわれ 日本野鳥図鑑 野山の鳥」国松俊永、偕成社 1995
「野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1975
「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997

藤巻裕蔵 (1992) 帯広における標識結果4. アカハラ、クロツグミ. 日本鳥類標識協会誌 7: 21-23.
羽田健三・渡辺博 (1969) アカハラの繁殖生活に関する研究. 信大志賀自然教研業績、8: 69-77.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ